



ひなどり

園だより 6月号

令和2年5月29日

新潟市立新津第三幼稚園

何かに没頭できること…実は、大きな能力です

園長 間嶋 哲

突然ですが、皆さんはどのような子どもに育っていくことを願っているでしょうか。

優しい子ども？これは心の面です。優しくないより優しい方がよいに決まっていますが、なかなか、「あなたは優しい」とすぐに判断できるものでもありません。たぶん、どの子どもも優しさを持っています。しかし、様々な状況下で多少変質する場合もあるのです。

頭の良い子ども？これは知の面です。小学校以降になれば、良くも悪くも学業成績がついてくるし、将来的には進学問題も必ずやってくるので、大切に思う気持ちは理解できます。ただ私自身は、幼稚園の時代こそ知的好奇心を大切にしておいてほしいと思っています。

健康な子ども？これは体の面です。新型コロナ禍で世の中が混乱している現在はもちろん、何はなくても健康第一です。普段健康であると、その有り難さには気付きにくいものです。

期待する子ども像を、しっかりと持っていることは大切なことです。前述したことはすべて大切なのですが、私は、あえて当園の教育目標「なかよく、せいっぱい遊ぶ子ども」を挙げたいと思います。およそ社会生活を営む者にとって、他者となかよくできる資質がなければ何も始まりません。そして、せいっぱい遊ぶことができるのは、何かに没頭できる能力につながるからです。

5月11日から始まった新潟市の「分散登校」の時期は、天気の良い日が続いていたこともあり、屋外で過ごす時間が長くなりました。子どもたちの様子を見に行くと、実に多種多様な活動に没頭していることが分かりました。透明な容器に密な状態(?)で入れているカエルをかわいがっている子ども。雲梯で自分の力を誇示してくれる子ども。畑に実ったイチゴの実をじっと眺めている子どもなど、どれも夢中に遊んでいる子どもの姿そのものでした。

6月1日からは、完全な保育の再開です。「ようやく訪れた春(夏?)」という感じですが、「新しい(園)生活様式」を意識し、十分に気を付けながら教育活動に邁進していきます。今年度は、小学校のプールでの水泳がなくなるなど、夏休み前までの各行事等が中止になり、大変御迷惑をおかけしています。子どもたちが、将来自らを振り返ったとき、「(記憶はぼんやりしていても)幼稚園時代は楽しかったなあ」と思えることを、私たち教職員が探して、よりよい教育活動に邁進していきます。昨年度好評であった『わくわくふれあいタイム』、あるいは『シャッフルタイム』と称した新たな取組みに挑戦し、没頭できる時間を創っていきます。

